

# 公益財団法人アジア保健研修所

## 2021 年度事業計画

(第 10 期 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

はじめに	2
<b>A. 研修事業</b>	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) 研修生によるコミュニティ活動への支援	
①パキスタン	
②フィリピン	
<b>B. 国内活動</b>	
1. アジア理解のためのプログラム	3
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
2. 情報および体験機会の提供	4
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	4
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
<b>C. 組織強化事業</b>	5
<b>D. 法人運営</b>	
1. 理事会・評議員会	5
2. 賛助会員募集・募金活動	5

## はじめに

### ■支援者との対話を進める

アジア保健研修所(AHI)は、1980年12月の設立から40年を経た。AHIのビジョン・ミッションや活動のねらい(ストラテジー)を「今」に照らしてとらえ直し、かつ組織全体像を描こうと、事務局を中心に2020年度議論してきた。

ここでは「誰もが尊重され、健康に暮らせる社会」をビジョンとして掲げることとした。この全体像の素案をもって2021年度は、支援者と対話の場を様々な形で設ける。

このような取り組みを継続的に行うことによって、今後もしっかりした理念のもと、社会に求められる存在としてふさわしい事業を行うことができる組織でありたい。また対話を持つことによって支援者との関係を強めることは、「参加型」の実践であり、同時に組織の土台を強化することであると考える。

### ■コロナ禍への適応とその後への準備

コロナ感染の収束はまだ見込めない。その中でオンラインを活用したでの元研修生や関連団体との関係強化に努める。特に、上述で触れた重点的な取り組みである関係者との「対話」のひとつとして、国外の関係者とAHIのめざす方向や活動を共に考えることや、彼らのニーズを把握することも非常に重要である。継続的なオンラインでの話し合いの場を設定し、ビジョンを共有しそれを共にめざすパートナーとしての関係を作っていく。

また、草の根での取り組み・住民の主体的な動きに着目し、その展開を、人づくりを通して支援してきたAHIとして、日本国内外の経験交流・学び合いを促進するために、日本国内での様々な地域活動に注目し、情報収集を進め、関係づくりに努める。インターネットが飛躍的に普及にした今、それを最大限活かし、草の根での取り組みや経験が行き交う学び合いを生み出していきたい。

### A. 研修事業

## 1. 国際研修

「すべての人びとの手に健康を」を実現するためには、住民にとって保健医療サービスを手に届くものにしなければならない。そのために住民が地域での意思決定に参加できる環境を作り出していくことが重要である。この研修ではアジア各国の地域開発に携わる現地のNGOの職員や地域のリーダーが、参加型研修を自ら体験することによって、住民の能力形成に向けたふさわしいリーダーシップを考えることをねらいとする。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止とした。今年度も従来の形で行うことは無理と判断し、2020年度交信を続けてきた昨年度の合格者を対象に、初のオンライン研修として実施する。各参加者が自分の活動地から離れることなく研修に参加できる利点を活かす。

#### \*期間と実施方法

各回10日間の集中的な研修を2回(5月～6月、7月～8月)、および9月に3日間のオンライン研修を行う。各回終了後に、各参加者で自分の活動において実践し、その振り返りをもって次回に臨む形をとる。

#### \*参加者

アジア6ヶ国から10名(新規募集はしない)。

\*なお、2021年度後半に、日本への招請が現実的に可能になった場合、AHIで10日間程度の研修を実施する。あるいは参加者のいずれかの活動地への訪問の可能性を検討する。

## 2. 研修生へのフォローアップ事業

元研修生が国際研修で学んだことを生かし、自身の活動を改善したり、新たな活動を発案し実施することができるよう支援する。

そのために、SNS等を活用して、関連分野での情報を提供すると同時に、各地での取り組みや課題を細かに拾い、共通の課題として発信する。

### 1) 英文ニュースレターの発行

昨年度は国際郵便の受け取り不可となったためやむを得ずオンライン版としたが、今年度はオンライン版のみとし、年に3回発行する。

コロナ禍での様々な課題や取り組み、特に「誰もが尊重され健康に暮らせる伴会」というビジョンに照らして、彼らの現実に照らしてどのようなものか、どんな取り組みが行われているかに焦点を置き、情報を収集し、日本の支援者との対話に活かす。

## 2) その他のフォローアップ

### \* 誕生日カード等の送付

元研修生あての誕生日カードや関係団体への年末グリーティングカードの送付によって関係維持や強化に努める。

### \* SNSの活用

簡便さ、即時性から SNS の有効性が高まっている。一層これを活用し、積極的な情報収集や発信に努め、得られた情報を将来の協働の手がかりとする。

## 3. 地域保健推進のための協働事業

### 1) 研修生によるコミュニティ活動への支援

元研修生による特定地域での活動に協力する。

#### ① 小規模 NGO の若手スタッフ育成

##### 元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS

##### Awareness Society (AAS)との協働(パキスタン)

参加型研修の実施およびフォローアップを通じ、パキスタン北部において、地方の NGO の若手職員やボランティアスタッフのリーダーシップ育成を行う。2021 年度の研修開催時期・場所は未定。コロナ感染の状況を見て決定する。

2021 年度末で、協力関係の終了を予定しているため、現地での自立的な運営にむけ、そのための態勢を作ることに一層努める。

#### ② ヘルシーライフスタイル推進

## 元研修生有志 ANAK-NC との協働 (フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体 ANAK-NC による、地域住民の健康増進とそのための環境整備の活動を支援してきた。しかし、メンバーの多くがボランティアとして関わっていることなどから組織・事業運営の弱さが従来から課題となっている。今後の協働関係の継続について検討する。

## B. 国内活動

コロナ感染状況に応じて、対面での開催とオンラインの活用を組み合わせる。

また、関係者と AHI のビジョンやその下での AHI の役割について話し合いを進める中で、各活動のねらいや方法についても検討する。

### 1. アジア理解のためのプログラム

#### 1) オープンハウス

より多くの人に、AHI の理念や活動を体験的に知らせる機会として開催する。

ボランティアで組織する実行委員会の運営においては、実行委員の主体性を大切にしつつ、かつ AHI のビジョンや、国内外の現状について意見を交わし学び合う場とすることに注力する。

開催日：2021 年 9 月(予定)

#### 2) 初めて始めて講座

新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月 1 回に開催する。その後の AHI との継続的な関わり(ボランティア活動、プログラムへの参加、財政支援)につながるよう、各参加者の関心、ニーズの把握に注力し、他のプログラムとの連携を図りながら具体的な情報の提供に努める。

#### 3) AHI 講座

関係者や職員、元研修生などを講師として、AHIのビジョンや活動に関連したテーマでの学習会やワークショップを開催する。

オンラインで行うものについては、その利点を生かし、遠方の関係者の参画を得られるように働きかける。

## 2. 情報および体験機会の提供

### 1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の元研修生の活動地域の状況や彼らの活動を伝える。より具体的な情報の提供に努め、読者が身近に感じられるものを目指す。

またボランティア紹介の記事を通して、支援者間の交流もはかる。年に5回、各回約3,000部発行。うち1回は手軽さをねらいとし簡便な形(A4両面)とする。

### 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

子ども(主対象:小学校高学年以上)向けに、元研修生による地域開発の活動も織り交ぜ、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に2回、各4,000部発行。

### 3) インターネットを活用した広報活動

ホームページ等により、不特定多数の新規の人たちに向けた情報発信を充実させる。同時に、関係者への情報発信に努め、その人たちから新しい人たちへAHIの情報が広がるように努める。

また英文のホームページについて、国曝研修やインターンに関して広く関心を喚起するよう内容を充実させる。

### 4) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象にNGOの活動の現場を体験する機会を提供する。さらに、多様な人たちの関与を促し、異なる背景や世代の人たちの交流を促す。

## 3. 他団体との協力

### 1) 他団体への講師派遣・イベント出展

要請に応じて、学校や諸団体に職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

「小学校で行う国際理解講座」は、日進市内においては、市との協働事業という位置づけで7校程度行う。加えて、日進市外の学校についても依頼に応じて実施する。

また、外部の諸団体が行うイベントに出展し、新しい人たちと接点を作ることに努める。

### 2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。

< >内は職員の各団体における現役職名。

・名古屋NGOセンター

・名古屋キリスト教協議会

・障害分野NGO連絡会 < 幹事・研修研究委員 > .

日本キリスト教協議会

・カンボジア市民フォーラム<世話人>

・開発教育協会など

日進市内の2つの市民グループに加わる。「にっしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの

“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」

また、職員が次の関係団体の役職を務めている。

・名古屋YWCA<評議員>

### 3) 他団体との協力による政策提言活動

名古屋NGOセンターやカンボジア市民フォーラムなどの加盟団体のツ員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

2020年12月に他の6団体と共に立ち上げた「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会は、世界貿易機関(WTO)での議論などの動向を見つつ、市民向けオンラインセミナーなど適宜活動を行う。

## C. 組織強化事業

### 1. 支援者と AHI を考える取り組み

国内外の大きな変化の中でニーズを把握し、同時に組織としてめざすビジョン、それに向けた自らの使命・役割を再定義し、そのもとで各事業のねらいや内容を見直す。

2020 年度の事務局内での議論を基に作成した全体像の図をもって、国内の関係者(会員・寄付者、ボランティア等)および 国外の元研修生や関係団体とともに議論を進める。この議論の中から、今後の AHI の方向性を確認し、同時にこれまでの 40 年間で蓄積した「資源」を再確認し、今、訴求力を持つメッセージは何かを探る。

## D. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

組織のガバナンスの機関としての評議員会、事業執行を担う理事会、各々の機能を充実させる。理事会が事務局と協力し、理念を新たに固め、今後の方向性を検討し、組織強化を進める。

### 2. 賛助会員募集・募金活動

#### \* 新規会員、特に「ひとつかみサポーター」(月額自動引落による支援)呼びかけの強化

新規の人と接点ができた際に、丁寧にコミュニケーションをはかり、継続的な関わりさらには財政支援につながるよう働きかける。

#### \* 継続率の向上

退会者の半数以上を占める自動退会(3年間納入がない場合)を抑えるために、新たな働きかけを検討する。また、利便性を高めるためにオンラインでの送金の仕組みの拡充に引き続き努める。

#### \* 「想いを伝える遺言書の書き方講座」

高齢化に伴い関心の高まりが想定される遺産相続について、司法書士である元職員の協力を得て講座を実施し、遺贈寄付につなげる。

#### \* 長年支援者への働きかけ

長年継続の支援者に対して特別に感謝を表す場を設け、家族や知人による支援の継承を期待し、関係強化をはかる。

#### \* 法人との協働を通じた働きかけ

既存の支援者である企業などの法人との関係強化、当該企業の社員への働きかけを検討する。それをもとに新規開拓の可能性を検討する。

### ■会費収入目標 計 13,000,000 円

#### a) 新規会費(年会費)

平均 5,000 円×目標 28 名 =140,000 円

#### b) 新規ひとつかみサポーター

月額 1,000 円×目標 30 名×8 ヶ月=240,000 円

#### c) 継続会費

##### i) 年会費会員

2,000 件×7,000 円(1 件あたり)×73% (継続納入率)=10,220,000 円

##### ii) ひとつかみサポーター

200 件×1,000 円×12 ヶ月=2,400,000 円

### ■寄付収入目標 計 30,000,000 円

#### a) クリスマス・お正月募金

目標額：15,000,000 円

期間：2021 年 12 月 1 日～2022 年 2 月 28 日

#### b) 一般寄付

目標額：15,000,000 円